

東京都目黒区の大樹さん

特別住民番号1959

『はるにれ』の絵本の大樹に憧れていました。

それで、息子が生まれた時、義父がソニーの『井深大』さんの大の一字を付けたいと言った時、すぐに『大樹』という名前が浮かびました。

実際に『大樹の樹』を見に行こうと、北海道へキャンプしながら、二週間ちょっと旅した事もあります。

読み方が、変わっているのですが、一生背負っていく息子には気の毒かなと思ったことでもあります。息子に「僕は自分の名前、すごく気に入っているんだ！！」と言われて、嬉しく思っています。

『大樹名募集』の企画、ありがとうございます。

応募の件、宜しく願いいたします。(父)



神奈川県鎌倉市の大樹さん

特別住民番号1962

我家の「大樹」は現在2才5ヶ月です。平成9年3月27日生まれで予定日より、10日早い出産で学年でも最後の方、ただでさえ小さいのに出生時の体重も2300gとひかえ目で心配しました。が、その発育ぶりは見事なもので、今やいっばしに心も体もわんぱくで目が離せません。

さて、名前の由来ですが、主人が命名しました。彼にとってこの名前は父、英樹からの最初にして一生物のプレゼントです。大きな樹にはたくさんの生き物が集い、安らぎを覚えるでしょう。名前に負けない『大きな人』になってもらいたいです。

文末になりますがこのようなエピソードを書く機会をいただいた事、町長様、役場の皆様に感謝するとともに、『大樹町』の特別住民をすすめてくれた私の父にも感謝したいと思います。(母)



北海道端野町の大樹さん

特別住民番号1971

このたびは、大樹町長をはじめ、役場の皆様のおかげで特別町民としていただきありがとうございました。

さて、特別町民の我家の「大樹」ですが、今年12歳になる小学五年生の次男です。大樹と書いて「ひろき」と読みます。

名前の由来ですが、命名は父親である主人がつけました。「男の子は体も心も大きく育ててほしい。」という主人の願いを込めて名前には「大」という字を一字入れることにして、長男には「大地」と名づけました。

2人目も願いどおり男の子が授かりました。北海道の広大な大地にしっかりと根つき空高くそびえ立つ大樹のように雄雄しい人になってほしい、という思いの中に、兄の「大地」と信頼し合い兄弟いつまでも仲良く。という願いも込めて名づけました。

幸いにも今日まで、大きなけがも、病気もせず兄弟仲良くしています。

これからも私達は、大樹町の方々とのご縁を大切にしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いします。(父母)



埼玉県新座市の大樹さん

特別住民番号1974

僕、清藤大樹。この5月で4歳になりました。僕の住まいは埼玉県の新座という所で、東京の清瀬と東久留米に挟まれた「天狗の鼻」みたいなところに住んでいます。僕の実家は、パパとママと大ちゃんの三人家族です。ちなみにパパは鹿児島、ママは札幌出身なんだよ。二人は東京の大学で知り合い10年付き合っただけで結婚したんだって。パパはラグビーをしていたんだけど、札幌のジージとママの弟二人も同じ大学のラグビー部だったんだ。



僕の名前はパパとママが付けてくれました。「清らかな藤の木が大きい樹木になっていくように、すくすくと育てて欲しい」という願いが込められているそうです。僕が生まれた時、ママは嬉しくて涙が出たって。パパは「これで宝がふたつになったよ」って言うてくれたんだよ。僕はパパとママは勿論のこと、鹿児島のイーちゃん、アーちゃん、札幌のジージ、バーバを初め、まわりの人々の愛情をいっぱい受けて大きくなっています。

この前ママに「大ちゃんは、大きくなったら何になりたい？」って聞かれた時「リスさんになりたい」って言ったんだ。「じゃ、パパとママもリスさんになるね」って言うてくれたよ。そして、ママにお手紙を書いたんだ。「ママっこんしょお」って。

最後になりましたが、大樹町の皆様のご発展を心よりお祈りしております。そして、是非今度遊びに行きたいと思っています。

兵庫県杜町の大樹さん

特別住民番号1996

時本大樹は、H9年1月17日に生まれた。現在2才の子供です。大樹は三人兄弟の一番下で、二番目の子供と12才も離れておりましたので、主人が、本を読んでいくつかの名前をピックアップしておりました。上の二人も、自分達もいっしょに考えさせてくれと云いだしまして、私と4人で、いろいろ考えた結果、この「大樹」と云う名前に決めました。大樹が生まれるまでに、一人流産しておりましたので、その子の分もいっしょに大きな樹のような元気で立派な人になってくれる様にと願ってつけました。



我家は8人家族で、私達家族5人と私の両親と祖母といった大家族です。上の2人は中学生になっていますので、祖母にもあまり話しかけないのですが、大樹が居るおかげで、毎日楽しく、にぎやかな家だと祖母が喜んでくれますので、よかったなと思っています。先日階段より転倒し、右の鎖骨骨折ということになってしまいましたが、大きな病気もせず、元気に育ってくれていますので、このまま元気にスクスク大きくなってくれたらと思います。(父)

東京都墨田区の大樹さん

特別住民番号2002

長男、大樹の誕生前日、東京は台風でした。夜に女房の陣痛を確認し、深夜、まだ強い風雨の中入院となりました。

翌日は、台風一過、朝から晴天となりました。そして昭和62年9月10日、朝の7時56分誕生となりました。



命名については、とにかく健康第一で、将来は、大地にどっしりと根をおろし、太い幹を土台に、たわわな枝葉を持ち、強い風雨にも動ぜず、たとえ一本の木であろうとも、周囲の皆より、「みごとな大樹だ」と言われる様に育てほしい、そう言う思いをこめて、私達夫婦で命名しました。

友人達に「大樹」と命名した事を話すと、皆すぐに「大器晩成か？」とからかいの言葉で祝福してくれました。

「晩成だろうと成るのだからいいだろう」と言いかえした事を、良く覚えています。

保育園や小学校等、集団の中に、読みはちがっても「大樹」が結構いるのには驚きました。私達夫婦にとって、多い名前とは思っていませんでしたから。

本人も名前は気にとっても入っているのですが、小学校の低学年の頃は、字画の多さに、だいぶ苦労しておりました。(父)

千葉県八千代市の大樹さん

特別住民番号2004

大樹という名前は、主人と私の二人でつけました。というより、主人は自分の名前「直樹」の一字である“樹”を使いたいと言い張ったのです。それがまた、親類に“き”のつく名前の子供が多く、とても悩みました。でもなぜか、口から出てくる名前は大樹で、知り合いにもいたのですが、この名前にしたい。心からそう思い決めました。大きのびのびと、樹木のように真っすぐ素直な子供になって欲しい。私達はそう願って名前をつけました。この名前をつけることができ、とてもうれしいし、何より私達の子供に生まれてくれて、本当にありがとう。(父母)



北海道下川町の大樹さん

特別住民番号2007

霊山大樹(だいき)満3才体重16kg 身長97cm、いつも4才位に見られ名前の様にしっかり大きく成長し産まれた時は身長50cm 体重2825gとちょっと小ぶりで、産まれそうになって入院し5日間も生まれず授乳時にはおっぱい飲まずとても苦労させられ今では信じられない位成長し、これから先がどうなるのでしょうか。



大樹の名は38年前の兄に名付けようと私の父が考えていたものでしかし母方の母が姓名判断でいいという名をつけることになり私の両親もまた男の子ができたなら大樹(だいちゅ)とつける予定だったのです。

しかし私妹と二人共女の子ができて両親はちょっと(とても)残念だったみたいでずっと子供の頃から「あなたが男の子だったら大樹にしようと思っていたのヨ」と言われてたのです。私が大樹を妊娠してから絶対男の子と信じておなかに「だいちゅん」といつも話しかけていたのです。

主人は自分で名付けたかったようですが私は子供の頃よりずっと男の子は大樹と決めていたのです。しかし、友人の子が大貴と聞いてちょっとがっかりしたのですが字も違うしということで東京に里帰り出産したので生まれてすぐ看護婦さんに「お名前は？」と言われ即「大樹です」「ご主人に相談しなくていいのですか？」他の方々はなかなか名前つけられず悩んでいる中私ぐらいだったみたいで兄の二人の娘も女の子にめずらしく〇樹とつけてまさか北海道にお嫁に来て大樹が生まれて始めて大樹町という名があると聞き人には「だいきくんて名多いものね」と言われるのがとても心外です。家業を継ぐと読み方を変えるのでその時こそ「だいちゅ」となるのが今から楽しみです。名の通り大きな樹になってね、だいちゅんにこれからも元気一杯で頑張っってね。(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号2009

大樹と命名致します時、長男ですので家族全員に望まれて、将来は大きな樹に育つよう、人のために役立つ様にと名前を考えました。

北海道に住みながら、大樹町があるなどはずかしいことですが、この機会に始めて知ったわけです。でも大樹の名前がこれからの大樹町に役に立っていただけるなんて夢の様です。



大樹自身もまるまると太って元気な子供です。

北海道地図を見て、ぼくの名前と同じ所があると大変喜んでおります。これからは、ぜひ家族で大樹町に行ってみたいと考えています。

大樹町の発展を祈っております。(父)

★世界の多くの親たち同様、長男・大樹の誕生は自分の人生観を変えた。子供なしでも、幸せ度数にはさしたる違いはないだろう、と考えていたのにとんだ思い違いをしていた。硬貨が裏表ひっくり返ったのだ。住宅情報誌の編集業務で連日の深夜残業に疲れて帰宅した早朝に、妻は産気づき、そのまま産婦人科へ。いったん帰宅して仮眠し、再びオフィスへ。残業明けの腑抜けた状態で、同僚の娘たちとバカ話をしていた夕方近く、入院先のナースから誕生の一報があった。編集部で拍手が沸き上がったけれど、感動の実感はまだひどく薄かった。半日ばかりで命懸けの妻には悪いが、男＋淡泊な性格＋疲労困憊では無理というものだ。で、とにかくJRに乗り病院へ向かった。喜びや期待とはニュアンスの異なる複雑な感情を胸の真ん中で転がしながら、妻と我が子の居る病院への真っすぐな道路をなぜかゆっくり歩いたのを覚えている。新生児室のガラス越しに我が子を探す。あの名札なしに見分けられる男親はまずいないだろう。クシヤ顔のそいつがクニクニ動きながらそこに眠っていた。その時自分の身体中に、あのコペルニクスの転回がヤアヤアとやって来た。「大樹(だいき)」の名付けは妻。十中十(八九の上)の直感力が、長男のドテーツとした顔を見るなりひらめいた。当然、自分も仕事柄、幾つもの候補作を用意していたが鉄壁の直感力の前に玉砕。「大樹町」を意識しなかったのは申し訳ないが、命名と息子本人との絶妙なマッチングに納得した頭のどこかには、大好きで移住してきたこの北海道の群青色の空に大きな枝を広げる大樹(たいじゅ)のイメージがまちがいなくあった。



★長男は現在小学六年生。1999年9月15日で満12歳になる。朝寝坊で夜更かしで、怪談好きで、新しいものの好きで、弟をいちびり、母親に怒鳴られはたかれつつ、元気だ。正義感が強く人には優しい子供に育てられている。すべての名前が体を表すものではないだろうが、少なくとも「大樹」は最上だった、とアテにならない直感の自分は思っている。(父)